

白石書寫『越前三国浦記』

(韃靼漂流記)について

宮崎 道生

本誌第三号の註稿「新井白石の世界認識」に於

いて、白石の韃靼認識にふれ、その場合韃靼即ちタルタリーヤとは異った意味をもつ韃靼関係文献として、白石の抄写本中に韃靼漂流記のあることにも言及したので(ハヤ六節)、この小文に於いては其の筆写本について概略紹介して見ようと思ふ。

先づ、園田千鶴氏著『韃靼漂流記の研究』によつて本書の内容を概観すると、これは越前商民の韃靼漂流の陳述筆記で、その漂流は後光天皇^明の御宇、寛永二十一年(一六四四)の出来事であつた。即ち、徳川幕府の三代將軍家老の晩年であり、清朝は三代世祖順治帝の順治元年、入關遷都の年に當る。越前国坂井郡三国浦新保村の船頭竹内藤右衛門、其子藤藏及び国田兵右衛門等は松前貿易の目的を以て、総勢五十八人、三艘の船に分乗し、其年四月一日、三国浦を船出し順風に帆を口り、佐渡島に至り、五月十日佐渡島出帆の晩から大風に遭遇し、海上を漂流すること十数日、彼等の所謂韃靼国に漂着した。彼等は此処で土人の陷害に墮ち、竹内藤右衛門父子を始め四十三人は殺害され、国田兵右衛門等十五人は辛うじて惨殺を免れ俘虜となつた。其の後、鹽難地から今の奉天に送られ、更に北京に轉送された。北京

滞留一年後、朝鮮を経て漂流三年目に始めて日本に生還する事を得た。時は正保三年六月であつた。其の生還者十五人中、園田兵右衛門、宇野五三郎の西人口、漂流人を代表して越前から江戸に出で、幕府当路者に会つて、漂流の顛末を逐一陳述し、且つ其の審問に答へた。その時の記録が即ち、本書雜祖漂流記であらう（三、四頁）。

園田氏は傳本を整理して、左の如く三種に大別せられた。

甲、石井本の系統に属するもの 六部

乙、内藤本の系統に属するもの 四部

丙、未見本（引用書に依つて其名を知るもの）一部
而して丙の文一に挙げられたのが新井本で、これと雜祖漂流記 漂流年代 寛永二十年

とされてゐる（同上書、一四頁）。園田氏が漂流年

代を右の如く寛永二十年とされたのは、蝦夷志に

寛永向。越前国新保人。漂至韃靼地。是歲癸未。

諸主乃率其人而入燕京。居歲餘。勅遣朝鮮送致還。

（舶船全錄三）

とあるによつものである（同上書、二五頁）。この他、漂流一件について口安積繪泊宛の白石手簡に幾

つか言及したものである（舶船全錄三）。園田氏は白石を以て、漂流記研究の最初の人と見て居られる（同上書、二二頁）。

園田氏が漂流記の傳本ならびにその研究について広く探索を試みられたことに敬慕を表するものであるが、白石についての部分には多少訂正を要するところがあるから、それと指摘すると共に、白石自筆本の特徴につき以下二三を申述べることとする。

先づ、園田氏は新井本の書名を雜祖漂流記とされたが、自筆本には「越前三国浦記」とあり、左に掲記する如く、漂流年代については、原本が寛永廿三年とするのを訂正して、廿一年とすべし、と註してゐる。流布本（石井本）——蝦夷流奇談全集所収——と多少異なつた所があるから、前書の部分も併せ掲げよう。

越前国三浦新保村にて竹内藤右衛門同藤藤三郎

園田兵右衛門舟登艘以上三艘に五十八人乗中 松前へ

商のために出船仕 海上にて大風に合 渡祖國へ吹付

られ 同國都へ召寄せられ それより天明の北京に送られ

朝鮮の都へ送られ 宗對馬守殿御内古川相右衛門殿へ

被渡 それより對馬へ着申候 右之國々にて實業

寛永甲申
明和十

七年
清和元年

一寛永廿三年四月朔日に越前國三國之御新保村を出

九年
享和元年

能登のへくらの嶽へ書 十五日種日和待仕り それより佐渡

十
享和二年

へ書申候 廿日種日和待仕 五月十日に佐渡を出 其夜より

三月十六
日迄迄正保

大凡に合候て 十五六日めに何方共知さる所へ書申候人分(後略)

此の自筆本と流布本とは較して見ると、内容には
と変りないが、流布本の方が説明の詳しい箇所幾つ
かある、使用文字に少くからず相違があり、而し
てその用語からしても自筆本の方が簡潔で、字本と
しての系統はむしろ流布本よりも良いものと考へら
れる。以下紙幅の都合により、最後の條のみをとつ
て比較を試みよう。

(自筆本)

通使仕候者とトクン、
ウと申候 日本人十
五人の中に其時分十
四五三罷成候者御座
候 右段之内申付内
藤殿並權取にて御座
候 健祖大明神國の
詞を此章體取能書申
ニ付而 此書を御筆

(流布本)

通使申書と、函國ともくそつと申候、
日本人十五人の内に、其時分年十四五歳
に相成候者一人居申候、此者最前被候候
竹内藤殿草權取にて御座候、大明の人と
詞よかひし候、通使仕候事自由自在にて
候ゆへ、此書と御奉行衆其外の人々、あ
たきとくそつとよひ申候、あちきとほ
わつんべの事にて候、とくそつとほ通詞
の事にて候、日本の書共、御奉行所へ参

行衆もアキキトク
ソウと何し御申候
アキキン申、童の
事を申候 トクソ
ウと申へ通使の事
を申候

日本の書とも奉行
所へ参時又町へ
罷出候時も人ミ
とかけ候へ共 此
さうり取を夫へ立
番衆とかめ申時ハ

日本の書共ハ大王
様御定にて何方
とも通り申と申さ
せ御奉行所へ参候
時も 御國の詞と
此はかれ能書申留
候 通使を仕候故
物の時よく申候
事 前生ハ此はか

候時、番所と通使に、番衆改候時、又
以町へ生候時も、人々皆られ候得ひ、此
草り取を夫に立、番衆と通詞とさせ候得
ひ、即時に侍明申候、番衆改候時、日本
の書共にて、大王様の御許にて何方とも
通り候と申候、或口奉行所へ参候時、
御殿にて参候と申候事と、後國の詞にて
右の通使所申候へ共、大王様の御定と申
を問て、いかにも懇懇に仕通し申候、被
有若年には候へども、如此詞を自由自在
に實る事 天道の御助かとは候程に御座
候

此若輩者、日本の詞にて、ものより候事
一切不調法に候て、物寛申事も成不申候
外に、健祖大明の人々と、詞をかひし、
侍明申事、十五人の若共、一身仕候ても
罷成候事にては無御座候、十四人の若共
申候は、江草り取は、前生健祖大明の衆
生にても候へ共、今生にては日本へ主束
るかと疑申候て、多に笑申候、此書を江
戸へ召違参候て、萬葉御筆の義共さ可

れ、狸組の者にて、
今ハ日本に生来仕
候か、又申候此者
誠はわけにて日本
にては中ニ役に立
物にて無御座候へ
とも、狸組人との出合
花をちらし申事
不思議に存候、以上

申上しものと存候、越前へ罷歸、追々よ
うづの詞頭留候て、書付可申上候、但し
此者、召出され、日本の詞にて御尋候
候口、扱もくたわけ者と可成思召
候、然共両国の人々との出合、物と申候事
は、花をちらし申候不思議に存候、

次に、この自筆本の頭欄に註記せられた白石の言
葉を、かゝりよう。(文章の引用は、註と關係ある部
分にのみとせしめる。また本分及び讀註に便宜返り處
を加へる。)

(1) 十一條

聖職五日
大將定謝
千北京
其時ハ申の年乃十月十一月の間にて
御座候 狸組の節に罷在(後略)

(2) 十二條

建州
建州の節ハ日本道ニ里四方程御座候
其中に王の御座候節日本の城のこと
くて候 但日本の御城よりハ、
御

(3) 十三條

座候、すゞに矢倉々とも御座候
二里四方程之内に屋形町屋ひしと御
座候

投降

忠厚本
可見

(4) 十四條

慈仁
正直
御法度万事の作法、事外明に正直に
見へ申候、上下共慈悲、正直にて

(5) 十五條

恭謙
大十五條
偽申事一切無之(中略)
いかにもいんきんに御座候

(8)

六十三條

死罪之者有之時ハ王へ被申上候 帝
天道へみくじ御取被成候 死罪仕向
敷とのみくじあり候へハ たとへ重
科の者も御たすけ御赦免被成候

具ハ弓ヤーと見へ申候(中略)毎
日弓の稽古馬上にてし自由自在ニ射
申候

上下共に軍法を不斷覽候て有之候由
申候 戦陽討死仕候者ハ領知其外男
女をきらハず正直に被下候 手柄を
仕忠功の人ニハ討死仕候而し 贈を
被下候 手負候者ニハ養生の爲に金
銀被下 定功輕重により加増被下候
曉病仕にけ申着なとにハ其身ハ不申
及罪科ニ仰付 妻子をハ國所被成召
遣に被付候 如此御法度かたく御座
候付て吟味仕候事 下迄も共通に
當申候由ニ候

(7)

六十三條

(6)

六十三條

凡所元則
必應於神
雖美路而
飲飽之意
亦可見矣

死罪之者有之時ハ王へ被申上候 帝
天道へみくじ御取被成候 死罪仕向
敷とのみくじあり候へハ たとへ重
科の者も御たすけ御赦免被成候

具ハ弓ヤーと見へ申候(中略)毎
日弓の稽古馬上にてし自由自在ニ射
申候

上下共に軍法を不斷覽候て有之候由
申候 戦陽討死仕候者ハ領知其外男
女をきらハず正直に被下候 手柄を
仕忠功の人ニハ討死仕候而し 贈を
被下候 手負候者ニハ養生の爲に金
銀被下 定功輕重により加増被下候
曉病仕にけ申着なとにハ其身ハ不申
及罪科ニ仰付 妻子をハ國所被成召
遣に被付候 如此御法度かたく御座
候付て吟味仕候事 下迄も共通に
當申候由ニ候

(10)

六十三條

萬里長崎

健祖と大明との境に石垣つき申候万
里有之由申候 高さ十二三間ほどに
見へ申候 但石にてハ堅不申之の程
なる物厚サ三四寸にしてかさねしつ
くいづめに仕候

(9)

六十三條

萬里長崎

主と下人との作法親と子のことに
見へ申候 召遣候者いたはり申事子
のことに仕候 又主を思ひ申事親の
ことに仕候 故に上下共にしたしく
見へ申候 大名家の儀ハ不存候 十
人廿人もし召遣候人又ハ其以下見申候
に此通にて御座候 下人何程召遣候
にも不存女房を仕合せ夫婦共に扶持
仕候

御奉行衆日本の吉共にまね詞にて御
申候ハ日本ハ義理もかたく武へんよ
く慈悲も有之由傳聞候 健祖國も其
ことに候故日本人御馳走被成候由
被仰候

